

挟むことがある表面所々に白色の細瘤を発生している。一見日本産の *Usnea cribrosa* Asahina に酷似しているので枝の横断面を檢したところ果せるかな中軸には篩状の孔があり含有成分もウスニン酸とサラチン酸で日本産の *U. cribrosa* Asahina に全く一致する。しかし発表時日の早い *U. Merrillii* の方が有効となる。なお *U. cribrosa* を記載した時筆者は松田英二君が Mexico の Chiapas で採た標本に *cribrosa* と同定すべきものを認め分布上疑問を懷たが Motyka によると *U. merrillii* は北米の東岸から New Mexico まで分布しているものであるから南部 Mexico で採集されても不思議はないであろう。

上記の問題と関連して Smithsonian Institution の所蔵品で *Usnea Merrillii* Mot. と同定してある標本 2 個を檢査した。其一は North Carolina 産で W. L. Culberson, no. 4749 と銘打ってあるが英文テキストで詳記したようにこれは *U. Merrillii* Mot. ではあり得ない。またその二は Merrill の頒布した 99. *Usnea ceratina* v. Huei Boistel というラベルが貼られて居るが A. W. Herre はこれを訂正して *Usnea Merrillii* Mot. としているが筆者は寧ろ最初の命名の方がより正しいと思っている。

□The Treat to Upper Teesdale appealed by the Botanical Society of the British Isles (1965). Upper Teesdale はイングランド中部に位置し、氷期の植物が石炭岩地帯に残存して、きわめて特異なフロラをなしており、ここを研究対象とした論文は 100 を越えるという貴重なフィールドである。

最近この地域に貯水池を造る計画が発表され、これが完成すれば Upper Teesdale のフロラは水没の運命にある。

Botanical Society of the British Isles は、この貴重なフロラの保護を世に訴えたるために、このパンフレットを発行した。内容は 16 頁にわたって事態の経過、貯水池建設による影響（水没、ダム建設工事の被害、環境変更による長期的影響）、保護の方策などを図や写真をそえて説明してある。この問題は 8 年前にも同じことがあり、その時なされた植物学者の行動や、同地域に関する主要論文のリストもあり、説得力のあるアピールとなっている。そして保護運動のための基金の拠出をもとめている。

このような小冊子を紹介する理由は、一つは Botanical Society of the British Isles がこのアピールを広く知らせることを希望していること。もう一つは最近日本でも同様な事態がしばしば起っていて、自然保護の動きがさかんになりつつあるので、その参考になると考えるからである。国情のちがいがあるとはいえ、一学会が特定地域の保護のために、基金を募って運動するという、その積極性は見習うべきではあるまいか。

(金井弘夫)